

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100220		
法人名	有限会社 エムズ		
事業所名	グループホームふきのとう北松園 1Fユニット		
所在地	〒020-0105 盛岡市北松園四丁目36番87号		
自己評価作成日	令和3年10月4日	評価結果市町村受理日	令和3年12月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から10年目を迎え、理念のもと入居者様、職員と共に日々笑顔で過ごせるように環境づくりをしています。コロナ禍でも出来る事を皆で考え、春は目の前の山や公園の桜で花見、そして畑づくり、夏はソーメン、かき氷で涼をとり、秋は、敬老のお祝いをさせて頂き、冬は様々な行事と創作活動をしています。職員の知識、技術向上のため、毎月グループ全体の研修と隔月でGHの研修を資料を見て行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「共に寄り添い・共に笑顔・その人らしく過ごせる環境作り」とする運営理念と5項目の具体的な介護理念を定め、全職員で共有し、利用者との関わりを大切に、表情やしぐさなどにより意向を把握し、きめ細かな介護サービスを提供している。コロナ禍のため、運営推進会議は資料を送付する書面開催として、意見や提案を書面で照会しその内容や対応等を議事録としてまとめ、改めて委員に報告し意見を求め、日々の運営に活かしている。毎月発行の「ふきのとう新聞」や担当者作成の「ふきのとうたより」により、利用者の生活状況等を知らせ、家族の要望や意見等を伺い、一人一人に対応した介護サービスを利用者に提供している。さらに、職員の提案や要望等により施設の整備や行事の実施など業務改善に努めるとともに、研修会の開催などを通じ職員の知識や能力の向上を図り、より充実した介護サービスの提供に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年10月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに掲示しており、定期的に申し送り時には理念の唱和を行い、日々のケアに取り組んでいる。	「事業所運営理念」と「介護理念」を申し送りや研修会などで確認し、職員間で共有して日々の介護サービスに活かしている。職員は知識・知恵・経験を重ね、利用者の意向の把握と関わり(気持ち、所作)を大切にしよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。	町内会に加入し、回覧板や松園新聞(地域情報紙)を通じ各種情報を入手している。いつもは保育園、小中学校、町内会との交流や、中学生の福祉体験・ボランティアの受け入れがあるが、コロナ禍のため見合わせている。町内会からの連絡により、この夏も花火を鑑賞できた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方々に報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況、活動報告、研修報告、事故報告等報告している。メンバーの方々から地域の様々な情報や意見等頂きサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため書面での開催としている。入居状況や各種報告(活動、研修、事故)を資料として届け、委員からは書面で質問や提案をいただいている。運営推進会議で議論した「転倒しても安全な環境・対策」については、事業所運営に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の申請、更新時の連絡と運営推進会議の議事録を持参し、関係づくりに努めている。	運営推進会議の資料などを市の担当課に提出し、また人員の配置などの運営に関する助言・指導を得ている。運営推進会議委員の地域包括支援センターの職員からも各種情報を得ている。地域ケア会議は中止となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、3ヶ月ごとに委員会を開催している。研修は、年1回行い、全職員が拘束がもたらす弊害を理解し、また、スピーチロックなど意識して適切な介助で拘束しないケアに取り組んでいる。	施設長、管理者、計画作成担当者による委員会を3か月ごとに開催している。研修会や職員アンケートを通じ、身体拘束に関する課題の把握と対応策等を職員間で共有し、日々の介護サービスに活かしている。転倒予防のためのセンサーは使用していない。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人全体で年1回研修を行い、利用者が安心して生活ができるよう話し合い、意識し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を行い理解している。現在、この制度を利用している方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に必ず、事前説明を行っている。契約書を十分に説明し疑問点を訪ね、理解して頂き納得された上で締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。運営推進会議の際など意見、要望を伺い運営に反映させている。	電話や通院同行で来所する際に家族から意見や要望を伺っている。毎月発行の“ふきのとう新聞”や隔月毎の“たより”でホームの様子や利用者一人一人の生活状況をお知らせしている。利用者から外出やスーパーでの買物の希望があれば対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り、ユニット会議、個別面談などで職員の意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させている。	毎月のユニット会議や連絡ノート、職員との個別面談を通じ職員の意見・要望の把握に努めている。用具の改善や食事時間の変更を具体化したほか、入浴施設(シャワーチェア)の導入について検討しているところである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力、勤務状況を把握し、昇給、賞与に勘案している。職員の考えや意向を聞き、職場環境の整備に努めている。希望休も可能な限り応えられるようにしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で行っている研修を含め、月1~2回研修会を行っている。経験やスキルに応じて外部研修や資格取得に向け研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症対策の為行っていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みや事前調査の際には、本人の要望、不安等を把握できるように努めている。本人のペースに合わせ、話しやすい雰囲気や関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅での様子や入居までの経緯を伺い、不安なことや要望、また介護疲れや様々な思いに寄り添い話しやすい雰囲気や関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を伺い、必要時には担当ケアマネジャーとの相談をおすすめしている。また、緊急を要する場合は他の施設を紹介するなど柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が援助するだけでなく、一人ひとりの力に応じたことを日常的に食事の片付け等の家事と一緒にいき共に生活しているという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を便りや電話でお伝えし、共に相談し意見を出し合い本人が穏やかに生活ができるよう支えていく関係を築けるよう努めている。面会はガラス越しで行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や年賀状のやりとり、携帯電話の使用を積極的に支援している。	利用者の加齢により、馴染みは家族が主になっているが、現在、家族等との面会はガラス越しとしていることもあり、利用者は家族と携帯電話で話し、中には職員の支援も得て手紙のやりとりを行なっている方もいる。馴染みの近所の美容院の方が定期的に来所している。コロナ禍で、家族との外出・外泊などは中断している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することがないように座席位置を考慮し、また会話や役割を通して円滑な人間関係を築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もこちらから様子を伺ったり、またご家族からの連絡で利用者の様子を聞くことができたりと関係が継続できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時などの1対1になった時の時間で思いや希望を伺い、また日々の会話の様子や行動、表情から汲み取り記録し、またカンファレンスにて検討して職員全員で共有し日々のケアで活かしている。	利用者の平均年齢が90歳と高齢化し、言葉での表出が難しい方が多くなっている。職員は表情や仕草から思いや意向を汲み取り、申し送りやカンファレンスで話し合っ、「気付きノート」に記載し職員間で共有している。「ふきのとうたより」にも記載し、家族にお知らせしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族やこれまで関わってきた事業所からも情報収集し、馴染みの暮らし方などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの個々のペースで生活できるように支援し、毎日の関わりを申し送りや気づきノート等で個々の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	密にスタッフ間でカンファレンスを行っている。また、ケアミーティングや担当者会議、毎日の申し送りでの情報をもとにプランに反映し、また本人や家族の意向を確認している。医師、訪問看護師の助言も参考にして現状に合ったプランを作成している。	介護計画は、電話や来所時に聴き取った家族の要望(介助方法、歩行など)や医師や看護師の助言も加味し、短期3ヵ月、長期6ヵ月として見直しを行なっている。モニタリングは、計画作成担当者が3ヵ月毎に居室担当者からの聞き取りや記録ノートを基に行っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや経過記録、気づきノートの活用で情報共有しケアに活かしている。3ヶ月ごとのモニタリングを実施し、必要時にはプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望により訪問看護、福祉用具、介護タクシー、理美容院などその時々生まれるニーズに対応しサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	松園という地域資源としても恵まれた環境の中で本人が豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院はご家族にお願いをしている。定期通院等、主治医宛に受診連絡票を持参して頂き、また事情により主治医に連絡をして助言を頂いたり、適切な医療が受けられるよう看護師、ソーシャルワーカー等との連携を密にしている。	入居前のかかりつけ医を原則家族同伴で受診している。遠方の家族の要請で、2名の利用者には職員が同行している。精神科などの特別科の受診も同様である。毎週訪問看護師が来所して体調管理を行い、訪問診療は月2回2名が受診している。メディカルソーシャルワーカーとも連携し、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携し、週1回体調管理で訪問して頂いている。訪看ノートを活用し体調変化を細かく報告、相談、助言を頂き、状態により通院の判断や主治医へ報告されることもある。必要のある方は医療処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、利用者様の情報提供を行い、入院中は、病院関係者と情報交換や相談を密に行い、利用者様、ご家族が安心できるよう関係づくりの努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階でグループホームでできる事、できない事と指針の説明を本人、ご家族へ行き、話し合い、意向を伺っている。状況に応じてその都度、意向を確認し関係者と連携を密に図り、支援に取り組んでいる。	利用者と家族に入居時に「重度化対応・看取りに関する指針」を説明し、同意を得ている。医療との連携は整っており、職員の研修も重ね終末期ケアを実施している。過去に2名の看取りの実績はあるが、近年は他の医療機関等への移送が殆どである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回救急対応の研修を法人全体でおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、日中と夜間を想定した火災訓練と地震、風水害の訓練を行っている。災害時のための備蓄の確認もしている。	日中や夜間想定消防避難訓練を、消防署員立ち合いも含め年3回実施し、チェックリストにより評価し改善点を明らかにしている。2階利用者の避難場所はベランダとしている。地域の自主防災組織との連携が出来ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊厳を傷つけないように一人の人間として向き合い言葉かけや対応を心がけている。接遇、プライバシーの研修を行い、振り返りも行っている。	加齢や認知症について十分理解した上で、利用者個々の尊厳を尊重したケアに努めている。言葉遣いや慣れ慣れしすぎない対応など、日々の介護の中で職員同士で声掛けし合っている。トイレ、入浴介助、居室へ入る際のノックなど、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類や活動など様々な場面で選択をして頂いたり思いを表せない方は、表情やしぐさ等から思いをくみ取り自己決定に近づけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を聞きながら利用者のペースに合わせて、希望に添えるよう支援している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類やヘアスタイルをお聞きしている。鏡を見ていただくなど声をかけている。イベントでは、お化粧を喜ばれたり、いつまでもおしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の口腔体操、献立の紹介や挨拶をいただいている。畑の野菜を利用者と一緒に育て収穫し、また餃子が食べたいと希望があった時は、皆で作り、楽しんでいただけるように工夫している。	ご飯とみそ汁は調理し、おかずは外注している。行事食(七夕・敬老会・誕生会など)は事業所で調理し、自家菜園の野菜も活用している。利用者の希望でギョーザやうどんを作り楽しんでいる。摂食実態に合わせ、刻み食やトロミ添加をしている。	食事は食欲や栄養摂取を満たすとともに、喜びや楽しみをもたらすものであることから、利用者の嗜好調査等を行い、その結果を調理委託者に伝えて献立作成の参考とする等の工夫を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	盛りつけ、形態、量など一人一人の状態に合わせて対応している。食事の様子を情報共有し、課題を見つけ改善に向けて話し合っている。医療面からの助言を頂きながら支援している。毎月、体重測定を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促し行っている。一人ひとりの状態に合わせて対応している。口腔内を観察し必要に応じて介助している。義歯は、洗浄液につけ、清潔保持ができています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し失敗を減らすよう努めている。身体機能に応じた対応を行っている。	自立者は6名で、他は排泄パターンにより声掛けやトイレ誘導をしている。布パンツ使用は5名で、他はリハビリパンツやパットを併用している。オシメ利用は2名(全介助)である。居室でポータブルトイレを使用する利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、運動、薬の影響などを理解し、対応等検討して予防に努めている。食事の工夫、牛乳水分摂取を促している。排泄困難時は腹部マッサージを施行している。また、体操に腹部マッサージを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	入浴はある程度決まっているが利用者の気持ちの添って対応している。入浴中は、なるべく希望に添えるよう湯加減、空調にも配慮している。会話を楽しみ、歌うこともあり入浴を楽しめるよう支援している。	毎日お風呂を用意し、週3回午後に入浴している。利用者個々に、脱衣所の室温や湯加減に配慮している。殆どの方が入浴を楽しみにしているが、避けたがる場合には、時間や日、担当者を変えて柔軟に対応している。入浴は利用者との大切なコミュニケーションの機会としている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室や共有スペースで休んで頂いている。休みたいと思った時に休めるよう状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を確認し理解している。服用時は、必ず職員2名でダブルチェックを行い、飲み込むまでの確認を徹底している。薬の変更時で体調等で変化が見られた時は、主治医や訪看に相談して指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりや一人ひとりの生活歴を把握して、畑の作業、新聞を読むなど楽しく気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に合わせて散歩が日課となっている。	天気の穏やかな日に近くの公園へ散歩したり、花壇や菜園の野菜栽培などを楽しんでいる。職員の付き添いで近くの大型スーパーで買物をする方もいる。コロナ禍のため、花見などのドライブや家族との外出・外泊は見合わせている。	戸外に出かける事は、生活に変化と潤いをもたらし、気分転換や五感に良い刺激となる。コロナ禍ではあるが、この時期の外出の在り方について改めて検討されることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて、自己管理できる方はご家族の了承のもと所持していただいている。ご自分のお財布から床屋代の支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使い方が分からなくなる利用者様には手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間で過ごされることが多く常に整理整頓に努め、清潔を保ち消毒も徹底している。室温、温度、太陽光などにも配慮し居心地良く過ごせる空間を工夫している。	クリーム色と木彫の落ち着いた色調で、引き戸から光が入り、明るく落ち着いた雰囲気となっている。広々としたロビーには、食事用テーブル、ソファがあり、手作りの作品、切花、テレビ等があり、利用者は思い思いの場所で寛いでいる。エアコン、パネルヒーター、加湿器が設置され、快適な生活環境となっている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	横になったり足を伸ばしたりできるソファがあり、交流ホールで景色を眺めるなど思い思い好きな場所で過ごしていただけるよう工夫している。広い空間を活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に努めている。ご本人の馴染みの物、家族写真を飾ったりしている。テレビを置かれている方もおりご自分の時間を大切に居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	居室には、ベッド、タンス、クローゼット、エアコン、パネルヒーターが備え付けられている。利用者は各自、家族写真、椅子、収納家具、テレビを持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害となる物などは、その都度片付け、お手伝いをしていただくなど利用者様の意向や行動を妨げないよう環境整備をしている。		